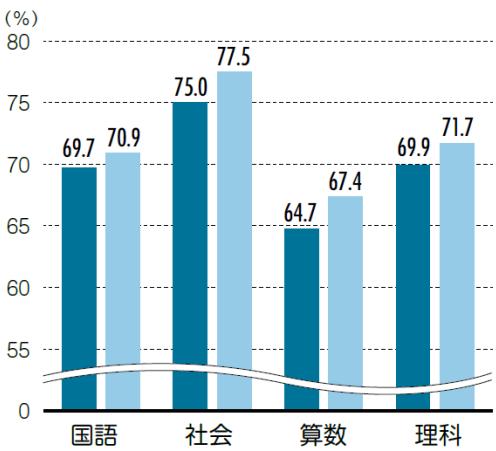


きりしまっ子の基礎学力

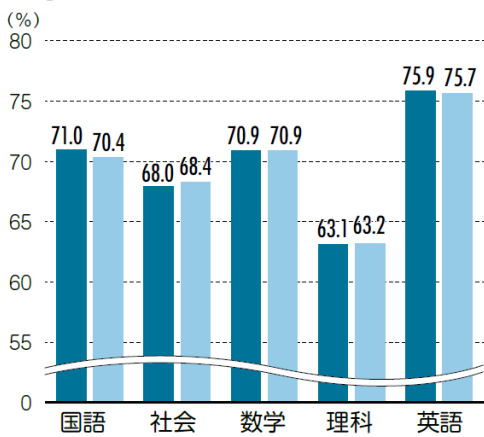


令和4年度鹿児島学習
定着度調査結果から

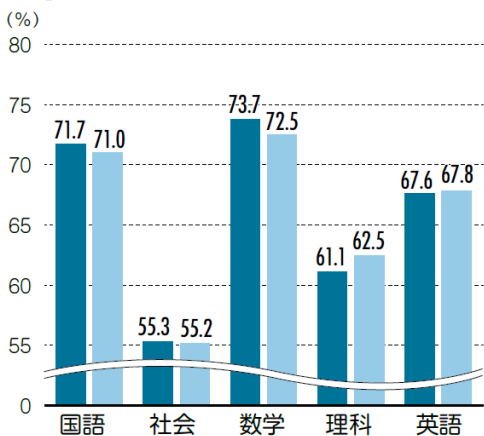
小学5年(現6年)の通過率*



中学1年(現2年)の通過率



中学2年(現3年)の通過率



*設問ごとに正答した児童生徒の数を、調査実施児童生徒数で除したものを。

児童生徒質問紙の結果から

		小5	中1	中2
自分でやると決めたことは やり遂げるようにしている	本市	46.9	41.9	46.9
	県	46.0	41.7	42.2
難しいことでも、失敗を恐 れないで挑戦している	本市	37.2	28.2	26.7
	県	35.2	26.1	24.5

本市の子どもたちは、「粘り強さ」や「挑戦する心」で県平均を上回りました。

県教育委員会は、1月に県内全ての公立小学校の5年、中学校の1・2年を対象に「鹿児島学習定着度調査」を実施しました。この調査は、児童生徒の学力の状況を把握し、教師の教え方と児童生徒の学び方を見直すためのものです。3月にその結果が公表されましたので、本市の状況や取り組みをお知らせします。

●結果の概要

●霧島市の小学校

小学5年(現6年)は、全教科で県平均との差が昨年度より縮まりましたが、県平均には届きませんでした。近年、

県平均を下回る状況が続いており、課題となっています。

●霧島市の中学校

中学1年(現2年)は、国語と数学、英語の3教科で県平均と同じか上回る結果になりました。

中学2年(現3年)は、国語と社会、数学の3教科で県平均を上回りました。

●学力向上へ向けて

●思考する力、表現する力を育てる授業の工夫

調査によって、本市の児童生徒は「知識・技能」を問われる問題よりも、「思考・判断・表現」を問われる問題が苦手

ということが分かりました。

学校では、児童生徒がじっくりと思考し、自分の考えを言葉や文章で表現する授業に積極的に取り組みます。

教育委員会は、児童生徒が苦手とする内容の演習問題を提供したり、学校を訪問したりして、よりよい授業、つくりに向けた指導を続け、学力向上に取り組みしていきます。

●個別最適な学びへ

子どもたちの興味・関心、学習進度・到達度はそれぞれ異なります。子どもたちの学力を伸ばすためには、一人一人に合った学びを提供する必

要があります。

学校ではタブレットを活用し、それぞれの課題に向き合える学習を推進しています。タブレットに蓄積された学習データを基に、自分の学習の状況や理解度を確認しながら、主体的に学習に取り組むことができます。

タブレットを家庭に持ち帰って活用する機会も増えてきます。子どもたちが、どのようなことを学んでいるのかが、一覧になり、家庭での励ましもよろしく願います。

◎ 問II 学校教育課 ☎(64) 07 07